

「地域のモデル校」としての役割

— 「授業づくり支援（JS）プロジェクト」の開発研究 —

学籍番号 199115
氏名 戸ヶ崎 晋平
主指導教員 木原 俊行

1. 附属学校における「地域貢献」の現状と課題

本章では、国立大学法人の附属学校の現状と課題を明らかにする。まず、その課題の1つである「地域貢献」の重要性について確認する。次に、大阪教育大学附属平野小学校（以下、本校）が現在「地域貢献」の取り組みで行っている授業実践講習会「オープンカフェ」に対する、本校教員の意識調査の結果を分析する。そして、さらなる地域貢献の必要性を確認する。

また、他の附属学校の地域貢献の先行事例を調査した結果を踏まえて、大阪市教育委員会と連携した「地域貢献」の在り方について論ずる。そして新たな地域貢献の取り組みとして、授業づくり支援（JS）プロジェクトを発足させる意義、そのための「プロセスモデル」と「支援プラン」開発の必要性について述べる。

2. 授業づくり支援（JS）プロジェクト 「プロセスモデル」の開発

本章では、JSプロジェクトを実施するにあたり、本校、大阪市教育委員会、大阪市立学校の連携の1年間の流れを示した「プロセスモデル」を作成した経緯を説明する。

まずR元年度に、本校管理職、大阪市教育センター首席指導主事、大学院主指導教員と協働し、プロセスモデル案を作成した。このプロセスモデル案は、次の5つの視点をもとに検討し作成した。関係づくりと基本情報の収集、詳細な情報の収集とアセスメント、研修内容・方法・優先順位の検討と決定、校内研修の作成・実施、校内研修の評価とフォローアップである。R元年度は、筆者が大阪市立N小学校を対象としてJSプロジェクトを実践し、その評価をもとに、R元年度当初の「プロセスモデル案」を改訂した。

R2年度の「プロセスモデル」案では、視点を再検討し、4つの視点で作成した。(1)依頼・要請、(2)関係づくり、(3)支援、(4)評価である。(1)は、大阪市教育委員会と連携し、JSプロジェクトのニーズのある協力校の選定を行う。(2)は、協力校の学校長や研修主任と、研修内容・方法・優先順位の検討や共有を図る。そして、ニーズを把握し、支援の計画を立てる。(3)は、支援プランをもとに、授業づくりの支援を継続的に実践する。(4)は、本校、大阪市教育委員会、大阪市立学校の教員にインタビューを行い、プロジェクトを評価する。その評価をもとに今後の計画に生かす。

なお、R2年度は、校務分掌として新たに位置づいた本校の「地域貢献推進委員会」のメン

バーを中心にJSプロジェクトを行った。R2年度の実践をもとに評価し、R2年度版「プロセスモデル」の完成に至った。

3. 授業づくり支援（JS）プロジェクト 「支援プラン」の開発

本章では、筆者や本校教員がJSプロジェクトの実践を通して「支援プラン」を作成した経緯について説明する。

まずR元年度「支援プラン」案の項目の検討を行った。筆者が試行的に「支援プラン」を作成し、それを手がかりにしてN小学校の校内研修を支援した。具体的には事前検討会や研究授業、討議会に参加した。事前にN小学校から指導案を送ってもらい、本時に向けて提案性のある授業プランを作成したり、筆者が自分のクラスでその授業を実践したりした。また、討議会后、研究授業に向けての期間も連絡・相談に対応し、継続的な関わりの中で、支援を行うことができた。そして、年間6回の研究授業の評価をもとにA事前検討会前、B事前検討会、C事前検討会后、D研究授業、E討議会、F討議会后から成る、R元年度「支援プラン」を精錬させた。

次いで、R2年度は、大阪市立N小学校と大阪市立K小学校に対して、本校の複数のメンバーによるJSプロジェクトを計画し、運用し、評価した。評価については、本校管理職と地域貢献推進委員会の教員、大阪市教育センター首席指導主事、大阪市立N小学校と大阪市立K小学校の学校長と研修主任にインタビューを行った。そして、それを分析し、「R2年度支援プラン」を改編した。それは、ファシリテーターと教科助言者が役割分担をすることを特色とするものである。ファシリテーターは研究テーマと研究授業のつながりを中心に支援し、教科助言者は授業内容・方法を中心に支援するものである。

4. 授業づくり支援（JS）プロジェクトの今後の展望

本章では、筆者が本校の地域貢献の新たな提案として授業づくり支援（JS）プロジェクトを実践したことの成果と課題についてまとめている。JSプロジェクトのように、公立小学校に対して、附属学校が授業づくりを支援する取り組みが持続可能なものであるかについて、実践研究をもとにふりかえる。授業づくり支援（JS）プロジェクトの今後の在り方については、地域貢献推進委員会のメンバーを中心に、「プロセスモデル」「支援プラン」を活用して実践を積み重ねていく。そして、今後も項目等の修正を行いながら、より良いJSプロジェクトにしていく。このJSプロジェクトを通して授業づくりに対する考え方を共有することが、力量形成につながっていくことを期待している。

また、本校の「地域貢献」の展望としては、まず三附属合同による、教育委員会とのさらなる連携がある。本校による実践を積み重ね、附属学校間の連携を図り、より充実した「地域貢献」の形を附属学校として進めていきたい。また、本校においては、現在行っている「授業実践講習会（オープンカフェ）」との連動やオンラインの活用による支援方法の多様性など「地域貢献」の新たな形を探っていく。